島根県水産技術センター　漁況情報　平成25年11月18日発行

トビウオ通信　（H25第9号）

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　(TEL 0855-22-1720)

《平成25年度下半期浮魚中長期漁況予報》

平成25年10月末に長崎市で開催された東シナ海～日本海南西海域の対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚類の平成25年度下半期（11～3月）の中・長期的な漁況を予測します。

山陰沖における漁況（来遊）予報〔平成25年度下半期（11～3月）〕

マアジ：前年を上回る　　マサバ：前年並み
マイワシ：前年を上回る　　カタクチイワシ：前年並み
ウルメイワシ：前年を下回る

※平年：過去5年間の平均値

マアジは前年を上回る

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後　平成19年まで減少傾向にあった東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は、平成20年からやや増加傾向となり、平成23年は4万6千トンとなりました（図1）。平成24年は再び減少に転じ、平成25年1～9月の漁獲量は約2万7千トンで、前年並みで推移しています。沖合域の今後（11～3月期）の漁況は、来遊量が前年並みであるものの、直近の漁況や調査船調査の結果などから前年を上回るとみられています。

一方、同海域の沿岸域における平成25年4～8月期の漁獲状況は、前年並みもしくは上回りました。今後（11～3月期）の漁況は、前年を上回ると予測されています。

山陰沖の漁況と今後　島根県の中型まき網によるマアジ漁獲量は平成13年以降3万トン前後で推移しています。平成25年の1～9月のマアジ漁獲量は約2万6千トンで、前年・平年同期の1.5倍でした。今年は1～4月にかけての漁獲量が低調だったものの、その後は増加に転じ、9月には約1万1千トンの水揚げがありました（図2）。

例年、11～3月期は0・1歳魚が漁獲の主体で、2歳魚以上も漁獲されます。毎年、島根県、鳥取県および日本海区・西海区水産研究所が行っているマアジ新規加入量調査※（マアジ0歳魚の山陰沖への来遊量を調べる調査）の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数は前年を大きく上回り、漁獲も好調であることから0歳魚（H25年生まれ）は前年を上回ると考えられます。1歳魚（H24年生まれ）と2歳魚（H23年生まれ）の豊度は、これまでの漁況経過から、それぞれ前年並みと考えられています。従って、山陰沖の今後（11～3月期）の漁況は、前年（約9千トン）を大きく上回ると予測されます。

※マアジ新規加入量調査の詳細については「トビウオ通信H25年第7号（平成25年7月23日発行）」をご覧ください。

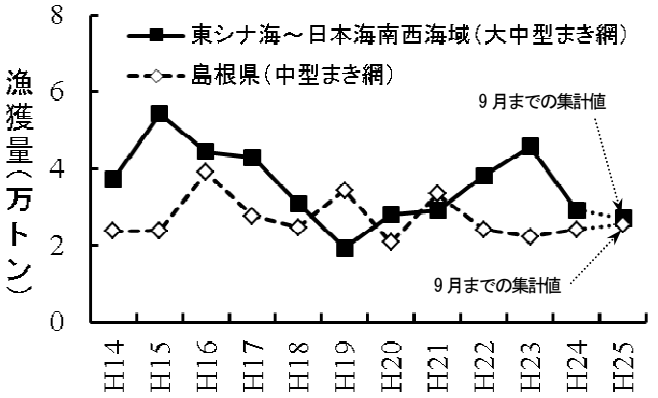

図 1. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマアジ漁獲量の推移
※H25 は 9 月までの集計値

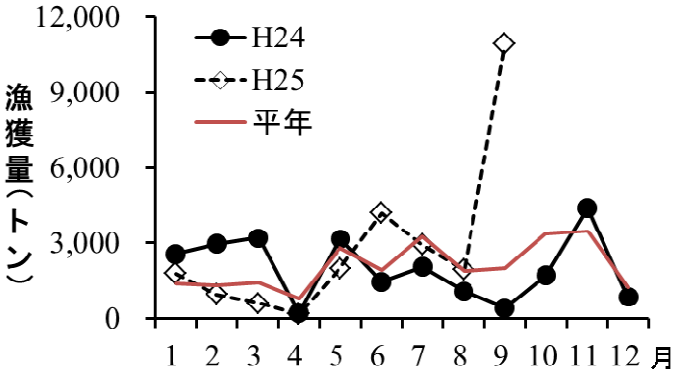

図 2. 島根県の中型まき網によるマアジの月別漁獲動向

マサバは前年並み

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後　東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成 19 年以降増加傾向にありましたが、平成 22 年から減少傾向となり、平成 23 年以降は 4 万トン前後で推移しています（図 3）。平成 25 年は 1～9 月の漁獲量が約 1 万 6 千トンで、前年を下回って推移しています。沖合域の今後（11～3 月期）の漁況は、来遊量が前年並みであることを反映して、前年並みであるとみられています。

一方、同海域の沿岸域における平成 24 年 4～8 月期の漁獲状況は、前年を下回りました。直近までの漁獲状況から今後（11～3 月期）の漁況は、前年を下回ると予測されています。

山陰沖の漁況と今後　島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成 17 年以降増加傾向で、平成 19 年からは平成 22 年を除いて約 1 万 5 千トン前後で推移しています。平成 25 年の 1～9 月の漁獲量は約 6 千トンで、平年同期の 1.2 倍、前年同期の 7 割でした。例年、10 月以降が主漁期となり、0 歳魚主体の漁獲で 1 歳魚以上が混じります（図 4）。0 歳魚（H25 年生まれ）、1 歳魚（H24 年生まれ）の来遊量は、これまでの漁況経過から前年並みであると考えられ、山陰沖の今後（11～3 月期）の漁況は、前年並み（約 1 万 1 千トン）と予測されます。

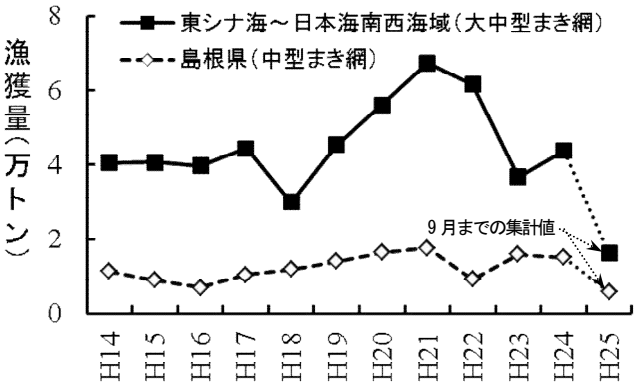

図 3. 東シナ海～日本海南西海域（大中型まき網）および島根県（中型まき網）のマサバ漁獲量の推移
※H25 は 9 月までの集計値

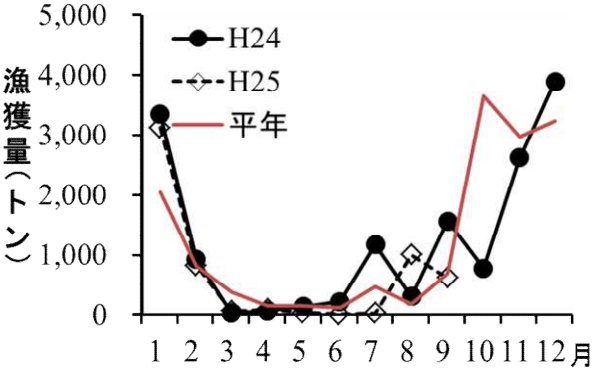

図 4. 島根県の中型まき網によるサバ類の月別漁獲動向

マイワシは前年を上回る

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成 12 年から平成 22 年までは多い年で 4 千トン程度でしたが、平成 23 年以降急増し、2 万トン前後で推移しています。平成 25 年は 1～6 月まで 2 千～8 千トンのまとまった漁獲があり、1～9 月の漁獲量は約 2 万 2 千トンと、平年を大きく上回りました（図 5）。

山口県～長崎県の沿岸域では、4～8 月期は長崎県が前年を下回り、他県では前年並みか前年を上回る漁況でした。平成 25 年生まれの豊度の評価は難しいですが、漁況の経過から前年を上回ると思われます。本県沿岸における今後（11～3 月期）の漁況は、1～2 歳魚が漁獲の主体となり、10 月に約 8 千トン(速報値)とまとまった漁獲があったことから前年（約 1 万トン）を上回ると予測されます。

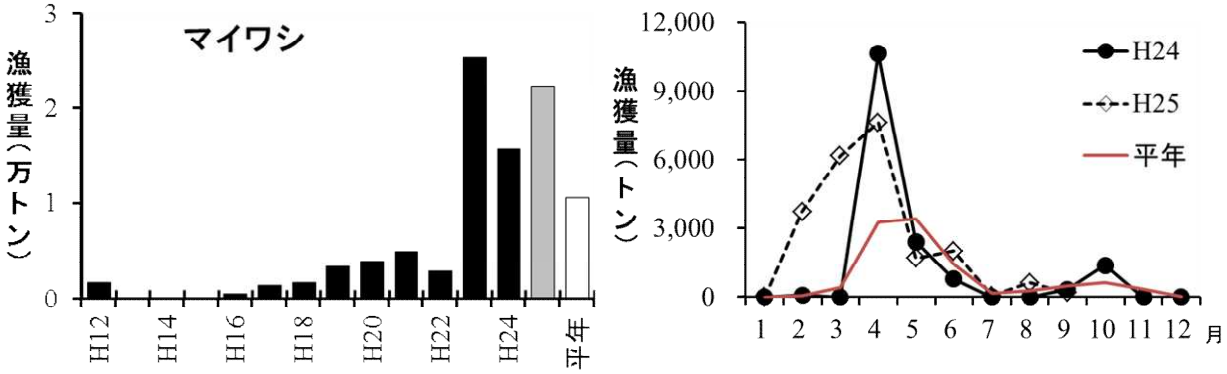

図 5.　島根県中型まき網によるマイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H25 年は 9 月までの集計値

カタクチイワシは前年並み

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成 13 年に漁獲が激減した後、増減しながら 1 万トン前後で推移しています。平成 25 年のこれまでの漁況は、主漁期である 3～4 月にまとまった漁獲があったもののその後は低迷し、1～9 月までの漁獲量は約 7 千トンで、前年同期の 9 割・平年同期の 6 割でした（図 6）。

過去 5 年間でみると、11～3 月期は 3 月以降が主漁期で、1・2 歳魚が漁獲の主体となります。山口県～鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過から、カタクチイワシの 1

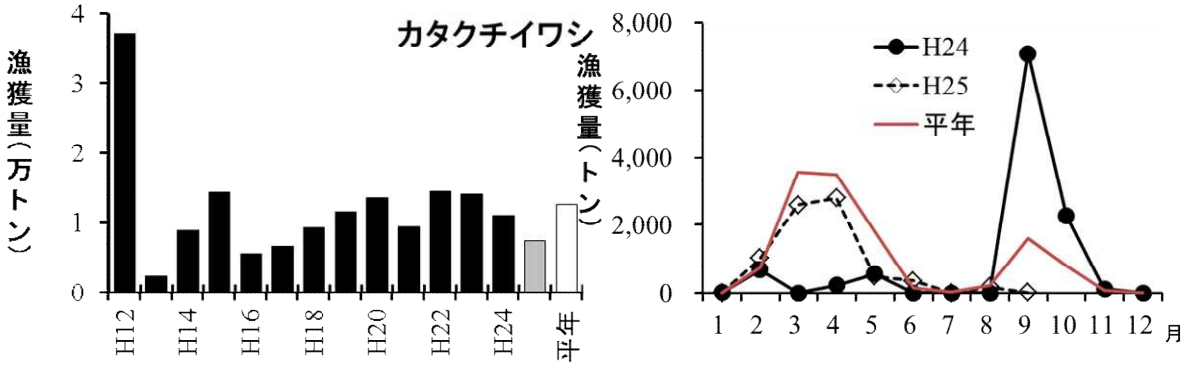

図 6.　島根県中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H25 年は 9 月までの集計値

歳魚（平成 24 年春生まれ）は前年並みか上回るとされています。従って、本県沿岸における今後（11～3 月期）の漁況は、3 月が主漁期となり、前年並み（約 4 千トン）になると予測されます。

ウルメイワシは前年を下回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成 23 年に 1 万 6 千トンと豊漁だったものの、近年は概ね 4 千～9 千トンで推移しています。

平成 25 年のこれまでの漁況は、1～9 月までの漁獲量が約 2 千トンで、前年・平年同期のそれぞれ 6 割で推移しました（図 7）。

例年、11～3 月期は、0･1 歳魚が漁獲の主体となります。山口県～鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過から、0 歳魚（H25 年生まれ）の豊度は前年並みか上回り、1 歳魚（H24 年生まれ）は前年と同程度であると考えられています。また、本県は例年 10 月にまとまった漁獲があるものの、今年 10 月の漁獲は約 1 千トン（速報値）と前年、平年を大きく下回ったことから、本県沿岸における今後（11～3 月期）の漁況は、前年（約 5 百トン）、平年（約 2 千トン）を下回ると予測されます。

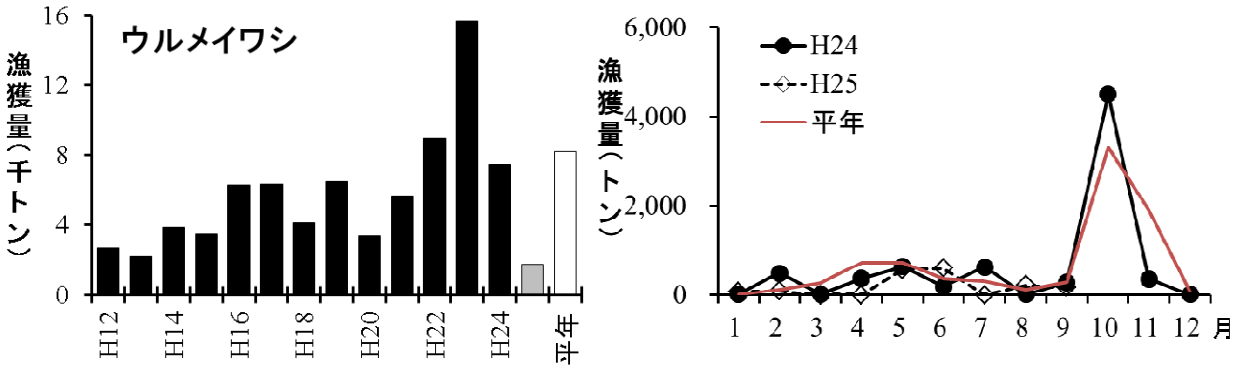

図 7.　島根県中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H25 年は 9 月までの集計値